

QFN通信

Qshu Forest Network News

NPO法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 佐藤宣子

お盆を過ぎ、急に秋の気配が感じられるようになりました。

少し遅れましたが、QFN通信第8号をお届けします。本号では、第9回フォーラムの報告と感想、小国開催となります第10回九州森林フォーラムの案内を記載しています。

ところで、6月末にフランスの農山村や林業現場を訪ねる機会がありました。ユーロ高の影響もあり、ガソリン価格が1L約300円。加えて、森林に対する環境規制が強まり、水辺近くの林地には車両を入れることが禁じられ、昔ながらの人力ソリ集材が復活し、薪使用が増加していました。木材価格も上昇し、立木価格が約1万円であり、日本との違いに唖然としました。

この1年、様々な問題の背景に資源の制約が眼に見えるようになってきました。生産や生活様式が大きく変わる（変わらざるを得ない）状況にあることを強く感じる旅でした。

森林の保全とその資源の有効かつ循環的な利用がますます社会に求められています。10回目となるフォーラムでは、「子供達に豊かな森林（もり）を引き継ぐために」をテーマとして、九州における人工林施業のあり方を議論する予定です。

ご参加の程、宜しくお願い致します。

第8号 since2005.6.1

発行日 2008. 9. 1

<発行>
NPO九州森林ネットワーク
本部：熊本県小国町
<編集責任>
宮崎・諸塚オフィス
<担当オフィス>



目次

第9回九州森林フォーラムの報告	2～3
サテライトNEWS	4
ネットワークオフィス 会員紹介	5
第10回九州森林フォーラムのお知らせ	6



ネットワークキャラクター
「やまと熱人(ネット)」

第9回九州森林フォーラムの報告 平成20年2月29日～3月1日

「木組みの家」の可能性～風土の中で培われた匠の知恵を見直そう～

各地の伝統的な匠の技術を取り入れた家づくりが紹介され、木組みの家の可能性と留意点や素材に求める性能などの問題を、蓄積してきたデータも交えながらの講演、議論がなされました。

第 1 部 2月29日(金)

■現地見学会

実際、実践されている木組みの家の実例を、鹿児島市で活動されている九州森林ネットワークの村田義弘理事が案内されました。技術的な問題、法的な問題、コストの問題など様々な困難を克服しながら、実際につくられている家は、住まいの手のニーズにあった、個性あふれるすばらしい家ばかりでした。

第 2 部 3月1日(土)

■会 場：鹿児島市 かがしま県民交流センター 大研修室第2

講 師：山辺豊彦(山辺構造設計事務所/東京都) 古川保(すまい塾/熊本市)
米谷良章(米谷良章設計工房/宝塚市)

く議論の内容については、九州森林ネットワーク・西村敏彦理事のブログに詳しく掲載してありますのでそちらをご覧ください。以下はその抜粋です>

アドレス <http://www.morino-ie.com/text001/dondon49.htm>

今回のフォーラムは、「木組みの家の可能性」と題して伝統工構法がテーマとなった議論が多くかわされた。講師に構造設計家は山辺豊彦氏、建築家は古川保氏、米谷良章氏といったメンバーをおかえて、いずれも伝統構法の色々な側面を理解し、その技術、技能をエコロジカルな住宅生産システムに生かした家づくりにトライされている面々。伝統構法を考える場合、構造の問題が重要なポイントであり、その意味で大工職の人々と共に進めてきた実験データなどを紹介しながら、木材を素材としてとらえ、その特性を生かして使う構法として『木組みの家』に取り組んでおられる山辺豊彦氏の講演が興味深かった。(中略)

伝統構法は木材を有効に活用する構法である。木材を活用することは森林、山の保全と循環を促進し、CO2削減に寄与することにつながる。このように今後の環境問題や経済構造を考えても普及すべき構法である。そのためにもきれいな言葉を並べるだけの信仰に近い構方から様々な検証をつみ重ね、長所を生かし、短所を補う工夫をして、信頼される構法となる努力が必要である。





～参加者からのコメント～

- ★現在伝統工法の家について勉強中だが、構造を理解していないと伝統工法の家を設計する事ができなかつつく思った。現在の間取り優先の構造は後から考えるのではなく、構造ありきの間取りを考えたい。その為山辺先生が実験されているデータ等を拝見し、きちんと理解したいと思った。そして、設計者のみがそれを理解するだけで終わらず、お施主さんや、一般の人々にもきちんと説明をしていくべきなのだと思う。（設計関係女性）
- ★川上あるいは川中側にとっては、いかにして川下側（設計者、工務店、施主）のニーズにあったものを提供できるかということにつきる。今回このフォーラムに参加して、やはり川上側の考えで動いている、本県の木材、林産業があると感じた。多くの方々の取組や考え方を聞くことが出来たので、今後の政策に反映できればと思う。何が求められているか、もっともっと深めていきたいので、このネットワークの輪に参加していきたいと感じた。（官庁男性）
- ★今回のフォーラムのことを知ったとき「これは行かなくては」と感じました。先生方のお話を是非聞かなくては、機会をのがしてしまうと思いました。特に山辺先生の建築（木造）に対する思い等を書籍で拝見していたため実際にお話を聞き質問できて大変うれしく思いました。（設計男性）
- ★建築基準法、こだわりの家についてなど多様な話が聞けて非常に参考となりました。建築については、これといった知識もなく、山辺さんの話は実験し、検証した中からの話でわかりやすい説明でした。古川さん、米谷さんもそれぞれに自分なりの考えを持たれている中で、今まで手がけられた家の建築について紹介され、家づくりの参考として非常に有意義でありました。（官庁男性）
- ★「木組みの家」の可能性というテーマとても興味深く楽しみに参加させていただきました。地域に根ざす未来人の希望を込めて工務店とし普及性、耐久性と消費者に近いという立場から聞かせていただきました。木の家は木組みありき、構造美というのを深く認識しました。そして今、木の家の危機にあり、今こそ山と連携しないと解決しないということもわかりました。今、住まわれる人のライフスタイルのパンを長くイメージしやすくする、又、住まわれる人に暮らしを添えて提案し、たくさんある選択肢の中からわかりやすく木の家認知が仕事だと思いました。（建築工務店女性）

サテライトNews とっておきのご紹介「滝」

九州各地の山の話を提供するコーナーです。今回は、夏の風物詩、各地の滝のスポットを紹介します。残したい自然がいっぱいあります。

熊本県小国町 鍋ヶ滝

小国町は、標高差の大きい地形からか滝が多いようですが、その滝の中で今注目は「鍋ヶ滝」。某ペットボトルのお茶のコマーシャルで使われたそうです。落差は小さいですが、幅が広くカーテン状に流れる美しさがすばらしい。滝の後ろに回って見られるのもうれしい！

場所はちょっと分かり難いのが良いですね。詳しくは、小国町森林組合か小国町ツーリズム協会にお問い合わせください。



諸塚村 飯干溪谷 白土々呂の滝

諸塚村を流れる耳川の源流にあたる飯干溪谷の最上流に白土々呂の滝があります。諸塚山のブナの原生林などから湧き出た水は、中生代三畳紀の石灰岩層の険しい溪谷を経て、ミネラル分が豊かな水となります。川添いには貴重な植物が自生しています。

普段は、自然保護を優先してなかなかご案内が出来ませんが、年1回ガイド付きエコツアーを実施していますので、詳しくは諸塚村観光協会へお問い合わせください。



大分県上津江町 黄金の滝

筑後川の上流にあたる日田市上津江に河川公園「上津江フィッシングパーク」近くにある「黄金の滝」。版画家の棟方志功が「周囲の紅葉が色づくころには、きっとこの滝は黄金色に輝くだろう」と絶賛し、写生をしたそうです。



九州森林ネットワークオフィス

- <本部>熊本・小国町：小国町森林組合 ☎0967-46-2411 FAX 0967-46-5474
〒869-2501 熊本県阿蘇郡小国町宮原1802 oguni@galaxy.ocn.ne.jp
- <サテライトオフィス>
- 福岡：九州大学大学院農学研究院内 ☎092-642-2876 sato@ffp.kyusyu-u.ac.jp
- 大分・上津江：㈱トライ・ウッド内 ☎0973-55-2657 info@try-wood.com
- 宮崎：諸塚村：産直住宅推進室事務局内 ☎0982-65-1116 tyabusa@morotsuka.jp
- 福岡：久留米市：西村工務店内 ☎0943-72-2256 info@morino-ie.com
- 鹿児島：建築工房 自然木内 ☎099-812-5701 jinenmoku@nifty.com
- 沖縄：(株) 幸和内 ☎098-936-9231 odo@tokukei.com
- 福岡：川崎建築構造設計事務所内 ☎092-574-8544 kawa-structure@sur.bbqi.jp
- 北九州：(有)ウッダイ工房内 ☎093-692-5430 k-shimasaki@woody-koubou.com
- 大分：ミウラクワノパートナーシップ(有)内 ☎097-504-3087 RXA04312@nifty.ne.jp
- 北九州：㈱安成工務店内北九州支店 ☎093-475-2323 kitakyusyu@yasunari.co.jp
- 熊本：球磨川ライン木の家ネット ☎0965-35-8430 imotokmt@vesta.ocn.ne.jp
- 佐賀：内川工務店内 ☎0952-23-9204 hazama-9204@hi.enjoy.ne.jp
- 長崎：長崎総合科学大大学院 ☎095-839-3111
- 熊本：球磨村：多武義治 ☎0966-34-0520
- 宮崎：都城市：蔵製材所内 ☎0986-62-1038
- 福岡：うきは市：浮羽森林組合内 ☎0943-77-2158

理事からのニュース

①山本多喜弥（耳川広域森林組合）

NPO法人九州森林ネットワークで、監事をしています山本多喜弥です。NPOが発足した時は諸塚村勤務でしたが、平成18年6月からお隣の美郷町北郷区に勤務しておりますので、その取り組みについて紹介します。

美郷町北郷区「北郷林研グループ」では、年に1回7月初旬にさび丸太を出荷しています。さび丸太とは、梅雨が始まる頃にヒノキを伐採し、皮を剥いて表面全体に黒や青・赤・白のカビを付けて、模様が出るのを磨いて出来た製品です。ただしこの丸太の大前提が枝打ちをして巻き込んでいることです。

出荷を始めて2年目ですが、林内に置いて適度に光が入らないとカビは付かない、また少し浮かして置かないと全体にカビは付かない、適当な間隔で丸太を回転させないと均一にカビが付かない等と、試行錯誤で頑張っています。出荷先は、奈良県と少し遠いですが、努力と工夫で徐々に実績はできつつあるようです。



②川崎 薫（川崎建築構造設計事務所）

福岡市で建物の構造設計をしています。最近は木造の仕事が多くなってきました。というのも、去年施行された改正基準法の影響で、これまで構造計算は必要ないとされてきた小規模の木造建物でも構造計算が必要となる動きがあるからです。そこで、もっと詳しく木造の構造設計を勉強したいという方々を中心に月に1～2回程度の勉強会を開いています。



（勉強会の様子）

木は鉄やコンクリートとは違い、生き物ですので、その特性を良く知り、理解して設計することが最も重要です。しかし、日常の設計業務だけでは、木の特性を十分に掴み難いのが現状です。そこで「“木”を知る」と題した計6回のワークショップを行いました。室内での業務と平行し、日頃から現地へと足を運び、体験することが大事だと考えています。

林業同様、建築業界を取り巻く情勢もどんどん厳しくなっていますが、山から町へ、健全で環境にやさしい木の流通サイクルを作るお手伝いが、少しでもできたらと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

■「“木”を知る」シリーズの報告とお礼

当シリーズは、建築の構造設計者が“木”について良く知るために、行政、森林、製材、工務店の各方面の方を講師に迎え、生の声で聞く会として計6回開催されました。

第1回と第6回は、「工務店」の棟梁である西村理事と内川理事を講師として、木造の伝統構法の技術的なお話から、木造住宅の市場開発まで話題は広範囲で、会場は活気にあふれました。

第2回と第5回は「行政」から、佐藤理事長と九大の村瀬教授を講師に、日本の山の現状と木の乾燥についての話をしていただき、山や木の持つ問題点を学びました。参加者も構造設計者だけでなく、行政、意匠、製材と様々で、各分野の視点から様々な話題が出ていました。

第3回と第4回の「製材」「森林」は、実際に小国町、諸塚村へと足を運び、杉の伐採現場から、原木市場、製材所を見学し、“木”の加工工程を追いかけてきました。自然乾燥、機械乾燥の違いや、森林認証についても理解を深められ、また山主との交流やそば打ち体験をしました。

全6回のワークショップを通して、“木”を身近に感じる事ができました。また、酒宴の打ち解けた雰囲気でも、とても良いネットワーク作りができました。これを機に、今後より一層構造設計者と現場の距離が短縮され、木造建物の可能性が広がることを期待しています。

今回のNPO法人九州森林ネットワークの全面的協力に、心よりお礼申し上げます。

★第10回森林フォーラム in 小国町のお知らせ★



- 開催日：平成20年10月3日（金）～4日（土）
- 会場：熊本県小国町情報企画センター（JA） ※宿泊・懇親会：木魂館
- テーマ：「子供達に豊かな森林（もり）を引き継ぐために」～九州の人工林施業を見直そう～

現在、戦後植栽の人工林が利用段階を迎えており、それを適切に伐採、利用し、確実に更新させていくことが求められています。伐採・利用・更新、そしてその後の育林を誰が、どのような技術体系で担っていけるのか？次世代に豊かな森林を継承するために、様々な課題が横たわっています。

九州では、世界的な木材需要の高まりを背景として近年、大規模な木材工場が操業し、国産材需要が高まり、「追い風」時代だといわれています。しかし、木材価格は長期低迷し、一定の収入を得ようとしたら大量に伐採せざるをえない状況にあり、皆伐面積が増加しています。全国的には、間伐を繰り返して長伐期にしていこうという流れがあり、政策的にもそれが推進されています。しかし、九州では、台風による風害リスクが高いことや高齢級にしても価格上昇が期待できないこと等々が指摘されています。

そうした条件下で、九州で非皆伐施業はできないのか？皆伐による水土保全機能低下を最小限に抑えるための工夫や早期回復させるための施業技術は？植林や下刈りの省力化手法は？天然林に誘導すべき人工林の管理とは？……など、経済と環境を調和させるために、地域の実情に合わせた施業システムについて整理することが求められます。

基調講演は8回目フォーラムに続き、藤森隆郎先生にお願いし、長年の森林生態学のご研究を基に、九州の人工林施業のあり方に対してご提言頂きます。更に、今回は九州外の現場の実務者から、施業の集団化と間伐施業の効率化、所有者への森林プランの提示、人材育成などで注目されている京都府の日吉町森林組合から湯浅勲参事にも講師をお願いしました。

当日は、九州の山々の現場で日夜、森林づくりに取り組まれている方々と共に、地域に根ざした人工林施業の将来ビジョンを熱く語って頂きたいと思っております。第10回目の記念フォーラムです。皆様の参加をお待ちしています。

- 主催：NPO 法人 九州森林ネットワーク
- 共催：小国町、くまもと森林認証住宅ネットワーク「小国杉の家」
NPO日本の杉桧を守る会、小国町森林組合
- 後援：(株)トライウッド、浮羽森林組合、諸塚村、耳川広域森林組合、熊本県、大分県、宮崎県、福岡県、佐賀県、長崎県、鹿児島県、日田市役所、熊本県森林組合連合会、熊本日日新聞ほか（一部申請中）
- 参加費：フォーラム参加費 1,000 円（会員無料）
- プログラム 3日（金）13時 現地見学会（小国町森林組合駐車場集合）
18時 交流会（木魂館 4,000円）
4日（土）9時 NPO法人 九州森林ネットワーク 総会
10時 九州森林フォーラム
基調講演①「持続可能な森林の管理に向けた人工林施業のあり方」
講師：日本森林技術協会 技術監査役 藤森 隆郎 氏
基調講演②「日吉町の森づくりと人材育成のビジョン」
講師：日吉町森林組合 参事 湯浅 勲 氏
パネルディスカッション

- お問い合わせ・お申し込み
NPO九州森林ネットワーク事務局（小国町森林組合内）
TEL0967-46-2411 FAX0967-46-5474

